



<<<<< 目 次 >>>>>

NPO法人日本がん検診・診断学会理事長就任にあたって	1
第20回日本がん検診・診断学会総会の開催にあたって	2
第20回日本がん検診・診断学会総会プログラム	2
2012年度(第7回)がん検診認定医講習及び試験プログラム	3
第7回 がん検診認定医講習会および認定試験開催にあたって	3
編集後記 メールマガジン発刊にあたって	4

## NPO法人日本がん検診・診断学会理事長就任にあたって

金子昌弘 ((公財) 東京都予防医学協会)



昨年の学術総会の後に行われました新理事会におきまして、僭越ながら理事長に選出していただきました。この度森山理事のご努力でメールマガジンを発行することになりましたので、この場をお借りしてごあいさつ申し上げます。

本学会は、昨年度まで、荒川前理事長がNPO法人化を行い、渡辺副理事長が認定医制度の制定と充実を図り、小野副理事長は庶務担当として内部をまとめてくださり成長し、創立から間もなく20周年になり、いよいよ一人歩きをしなければならない時期にまいりました。

このような重要な時期に理事長を引き受けることになり、改めて身の引き締まる思いで、今後の活動方針などを考えてまいりましたが、基本的には荒川理事長の引いた路線をさらに発展させ、より一層の活性化を図っていきたいと思っております。

本学会の活性化として具体的には、内部的な面と外部的な面に分けて考える必要があります。

内部的な活性化としては、委員会活動の活性化を図るために、委員会の増設やすべての理事の委員会への参加の義務付けなども考慮しております。また役員のみならず会員間の迅速な情報共有や交流を図るために、ホームページの拡充や定期的なメールマガジンの配信なども実施したいと考えております。

本学会は多分野の専門家の集まりですので、なかなか帰属意識が芽生えませんが、できるだけ各専門分野の垣根を低くして、交流を図ることでこの学会のことを常に第一に考える会員を増やしていきたいと思っております。

外部的な活性化としては、日本のがん検診の問題点として、受診率の低さが常に問題になっておりますので、学会としてもこれを引き上げるための努力をすべきと思っております。今までは内部へのエネルギーの充実に努めてまいりましたので、これを外部に向けることで受診率の上昇や、より精度の高い検診の普及をはかることで、日本人のがん死亡抑制に貢献すべきと思っております。

具体的には、政府や厚労省あるいは各自治体の現検診の担当者への積極的な働きかけ、市民公開講座や一般向けのホームページの拡充などによる啓発活動なども積極的に行う必要があるかと思っております。

これらの目標がすべて達成できるかどうかはわかりませんが、一歩でも二歩でも目標に向かい前進するように微力ながら全力を尽くしたいと存じます。

会員各位のますますのご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

## 第20回日本がん検診・診断学会総会の開催にあたって

会長 池田徳彦（東京医科大学外科学第一講座 主任教授）

第20回日本がん検診・診断学会総会を、平成24年7月14日、15日の2日間、東京都新宿区西新宿の東京医科大学病院の臨床講堂で開催いたします。第20回という学会として成熟期に入った節目の総会を開催させていただくことを大変光栄に思っております。

私の専門分野は呼吸器外科であります。肺がんのみならず、すべての領域において、がんを早期発見し低侵襲治療で根治する、という社会の要望が強くなってきて感じております。がん検診に対する要求水準も年々高くなることが予想され、我々は質の高い検診を行うとともに、科学的根拠に基づいた効率化・適正化、新しい科学技術やサービスの導入、情報の発信などを推進していかねばなりません。

学術集会のテーマを「がん検診・診断学の新たな局面」とさせていただき、より社会に貢献しうるがん検診の近未来像を討議して参りたいと思います。どうか多くの方がご参集されますよう、心よりお願い申し上げます。



## 第20回日本がん検診・診断学会総会プログラム

- 特別講演 『生涯健康管理システムの実現に向けて』  
大山永昭（東京工業大学情報工学研究施設）
- 理事長講演 『がん検診の成果を高めるためになすべきこと』  
金子昌弘（日本がん検診・診断学会理事長）
- 会長講演 『外科からみた肺癌の検診・診断』  
池田徳彦（東京医科大学外科学第一講座）
- シンポジウム1 『メディカルツーリズム』
- シンポジウム2 『各種がん検診の死亡率減少効果』
- シンポジウム3 『女性特有のがん対策：効果と課題』
- シンポジウム4 『消化器がん検診の新しい展開』
- シンポジウム5 『前立腺がんのPSA 検診とその解釈』
- ワークショップ1 『がん検診啓発の試み』
- ワークショップ2 『各種がん検診の精度管理』
- 教育講演 『肺がん検診の新たなエビデンスとその解釈』
- 一般演題1
- 一般演題2
- ランチョンセミナー（14日） 協賛：サードウェイブジャパン  
『LBCのワークステーション展開—検診から診断まで—』
- ランチョンセミナー（15日） 協賛：日本メジフィジックス  
『がん検診におけるFDG PET/CT 診断の有用性』

## 2012年度（第7回）がん検診認定医講習及び試験プログラム

開催日：2012年7月14日（土）

会 場：東京医科大学病院

時 間			講 師	所 属
9:30 ~ 9:35	開会挨拶			
9:35 ~ 10:05	婦人科がん検診	講義	小田 瑞恵	こころとからだの元氣プラザ 婦人科
10:05 ~ 10:10		試験		
10:10 ~ 10:40	腹部超音波がん検診	講義	小川 眞広	駿河台日本大学病院 消化器肝臓内科
10:40 ~ 10:45		試験		
10:45 ~ 11:15	肺がん検診	講義	本多 英俊	東京医科大学 外科学第一講座
11:15 ~ 11:20		試験		
11:20 ~ 11:50	胃・大腸がん検診	講義	河合 隆	東京医科大学 内視鏡センター
11:50 ~ 11:55		試験		
休 憩				
14:35 ~ 15:05	泌尿器科がん検診	講義	三神 一哉	京都第一赤十字病院
15:05 ~ 15:10		試験		
15:10 ~ 15:40	乳がん検診	講義	山田 公人	東京医科大学 乳腺科
15:40 ~ 15:45		試験		
15:45 ~ 16:15	小児がん検診	講義	陳 基明	日本大学 医学部 小児科学系
16:15 ~ 16:20		試験		
16:20 ~ 16:50	放射線機器によるがん検診	講義	齋田 幸久	聖路加国際病院 放射線科
16:50 ~ 16:55		試験		
16:55 ~ 17:00	閉会挨拶			

### 第7回 がん検診認定医講習会および認定試験開催にあたって

担当委員長 小川眞広（日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科分野）

これまで本学会のがん検診認定医の講習会および認定試験は、総会終了後の翌日に行われてきましたが本年度より総会に組み込まれ開催されます。講習会および認定試験のプログラムは上記のように毎年と同様所属7学会より講師をいただき8分野で行われます。がん検診のgeneralistの育成を目指し発足された認定医制度ですが、実際には分野が広く最新の知識を維持することは簡単なことではありません。そこで総会ではただ試験を行うだけでは無く、各領域の最新の知識を習得すべく各講師の講演を聴衆することも可能となっています。もちろん認定医の維持・継続のための単位取得の対象ともなります。これだけの広範囲のがん検診についての最新の内容を短時間に学習できることは珍しく、日常診療においてもすぐに役立つと考えられます。今回より総会内での開催となったため会員の先生方も聴講しやすくなったと考えられます。是非ふるっての御参加をお待ちしております。

## 編集後記 メールマガジン発刊にあたって

このたび基本7学会と広範囲にわたるがん検診・診断領域の最新のニュースおよび知見を会員の皆様により早く提供すること、さらには会員への学会からのお知らせや学術集会、セミナーなど学会と関連性の高いイベント開催の周知を目的として、メールマガジンを刊行することといたしました。また学会誌の補完も刊行の目的のひとつとしても考えており、他学会主催の学術集会に参加しての報告や感想などについても随時メールマガジンに掲載する予定であります。このメールマガジンの編集は、広報渉外理事であります森山が担当させていただきます。

メールマガジン第1号は、7月14日、15日の両日に東京医科大学にて開催される、「第20回日本がん検診・診断学会総会のお知らせ」と「認定医講習および試験のお知らせ」を中心といたしました。

今後、このメールマガジンの内容をより発展させるために、会員の皆様のご指導・ご鞭撻を賜るよう宜しくお願いいたします。

広報渉外担当理事 森山光彦（日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野）

### 特定非営利活動法人日本がん検診・診断学会メールマガジン

2012年7月2日発行 Vol. 1 No. 1

〒102-0072 千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F (株)クバプロ内

特定非営利活動法人日本がん検診・診断学会

編集発行：株式会社クバプロ

TEL：03-3238-1689 FAX：03-3238-1837

E-mail：npojimu@jacdd.org URL：http://npo.jacdd.org/